

平成29年度

南陽市中学生

地域間交流セミナー

報告書



南陽市教育委員会

はじめに

南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

「学んだことは誰にも奪われない・・・。」最近、あるテレビコマーシャルで流れていたフレーズです。このフレーズには、「自ら学ぶことの大切さ」と「主体的な学びは必ず将来の人生に生かされること」を伝えたいという願いが込められていると感じました。さらに、「本物に触れる」という実体験の場が加わることで、その人にとっての「真の学び」に変容するものと感じています。

今年度で3年目を迎えた「南陽市中学生地域間交流セミナー事業」では、本物に触れることを通し、真の学びを体験することができたと考えています。本事業の目的は、「南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色ある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地方創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成すること」でした。その上で、自分（たち）の意志で決めることや多面的な見方・考え方をすることに焦点をあて、自分の殻を破ることや突発的なことでも柔軟に対応できる力をつけることを常に意識した活動を重ねてきました。特に3日間の本セミナーでは、振り返りの場や自らの考えや思いを表出する場を通し、誰にも奪われない自らの気づきにつなぎ、実体験に裏打ちされた説得力のある確かな言葉として表現できるように変わっていききました。轟壕（ガマ）では、ボランティアガイドさんのお話に心を揺さぶられ、これまで体験したことのない暗黒・無音の世界の中では人間の五感すべてが刺激される空気感に圧倒されました。また、このセミナー期間、那覇市国際通りの工事現場から見つかった不発弾の撤去作業が行われ、若干の予定変更を余儀なくされました。このような体験からも、沖縄では戦争の爪跡がまだまだ残っていることを実感させられ、教科書や伝承だけでは決して得られない、本物に触れてこそその貴重な学びに浸ることで、戦争の悲惨さや命の尊さそして恒久平和の樹立に向けた思いを心に深く刻み込むことができました。他にも、本当の家族の一員として温かく受け入れていただいた民泊家庭での宿泊体験（再会を強く約束してきました。）や糸満市立高嶺中学校における同じ2年生による「エイサー」での大歓迎を受けての交流学习（お土産の雪に感激してもらいました。）等、貴重な学びを重ねた姿に、雄飛無限の可能性を秘め、将来を担う確かな人材としてたくましく羽ばたこうとしている11名の大きな成長を改めて感じています。その一人ひとりの成長の一端が、この報告書にも綴られています。是非、このセミナーで培った力を、自らの人生を切り拓く糧としながら、南陽市のますますの発展はもとより、これからの明るい社会と平和な世界の創造に紡ぎつないでくれることを心より期待しています。

最後になりましたが、本交流セミナー事業を実施するに当たり、市内各中学校の校長先生を始めとする各中学校の先生方、特に事前研修会から熱心にご指導いただきました南陽市立赤湯中学校の奥山優美先生、社会教育課の小下圭介様、JTB プラネット取締役社長佐々木俊様に感謝を申し上げるとともに、訪問団を快く受け入れていただきました糸満市教育委員会、糸満市立高嶺中学校、糸満市観光協会、民泊家庭の方々、その他多くの関係する皆様方のご理解とご協力に心より感謝を申し上げます。

目次

○はじめに	南陽市教育委員会学校教育課長 佐藤 政彦	1
○目次		2
○南陽市中学生地域間交流セミナー参加者名簿		3
○南陽市中学生地域間交流セミナー実施要項		4
○保護者説明会資料		7
○事前学習会資料	第1回目	10
	第2回目	14
	第3回目	16
	第4回目	19
○南陽市中学生地域間交流セミナー結団式資料		23
○事後研修会資料		24
○セミナーを振り返って		25
○「未知の世界に踏み出す勇気」	南陽市立赤湯中学校教諭 奥山 優美	37
○アルバム		38

平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー 参加者名簿

No	氏名	性別	学 校	
1		女	沖郷中学校	
2		男	沖郷中学校	
3		男	赤湯中学校	
4		男	赤湯中学校	
5		男	赤湯中学校	
6		女	赤湯中学校	
7		女	赤湯中学校	
8		女	赤湯中学校	
9		女	宮内中学校	
10		女	宮内中学校	
11		女	宮内中学校	

※ 引率者名簿

No	氏名	性別	所属・職
1	佐藤 政彦	男	南陽市教育委員会学校教育課長
2	奥山 優美	女	南陽市立赤湯中学校教諭
3	矢野 斉	男	南陽市教育委員会指導主査
4	佐々木 俊	男	JTB プラネット取締役社長

平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実施要項

1 目 的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

2 行 き 先 沖縄県糸満市

3 期 日 平成30年1月18日(木)～1月20日(土) 2泊3日

4 対 象 南陽市内中学校の2年生 *教育委員会引率と旅行添乗員が全日同行

5 募集定員 12名

6 研修内容

- 1) 史跡等の見学や民泊を通して、沖縄特有の文化や風習等に触れるとともに平和について考える。
- 2) 現地中学生との交流を通して、自己の地域に対する考え方を深める。
- 3) 事前・事後の学習において、他校の中学生との主体的・協同的な学びを通して、多面的・多角的な見方や考え方を育成する。

7 日程概要(予定)

月日	地名	時間	研 修 内 容
H30 1/18 (木)	南陽市	7:30	南陽市役所集合・出発 ※ バスで移動
	仙台	10:00	仙台空港着
		11:50	仙台空港発
	沖縄 糸満市		※ 飛行機
		15:05	那覇空港着
		15:45	那覇空港発
			※ バスで移動
		16:30	首里城公園 着 全員で視察
		18:00	首里城公園 発
			※ バスで移動
		18:45	サザンビーチホテル&リゾート沖縄 着 チェックイン 宿泊
		19:30	夕食
		20:30	ミーティング(ふり返りと予習)
		22:00	就寝
1/19 (金)	沖縄 糸満市	6:00	起床
		7:00	朝食
		8:30	
			サザンビーチホテル&リゾート沖縄 発 チェックアウト ※ バスで移動
			◎史跡等の見学 轟壕～山形の塔～平和祈念公園 ～ひめゆりの塔(昼食)～
		14:45	糸満市内の中学校 着

		16:15 16:40 17:40	【現地中学生との交流】 糸満市内の中学校 発 糸満市観光協会 着 ホストファミリー宅へ移動 糸満市に民泊
1/20 (土)	沖縄 糸満市 仙台 南陽市	9:00 9:30 10:00 10:30 12:45 13:15 14:15 16:40 17:30 20:00 20:15	ホストファミリー宅発 糸満市観光協会 着 【お別れの会】 糸満市観光協会 発 ※ バスで移動 国際通り 牧志公設市場 着 【 昼食・お買い物 】 国際通り 発 那覇空港 着 那覇空港 発 ※ 飛行機 仙台空港 着 仙台空港 発 ※ バスで移動 市役所到着 解散

8 参加費用 研修に要する費用(交通費・宿泊費・ガイド料等)は、予算の範囲内において、市が負担する。

9 応募資格 次の要件を満たしているものとする

- ① 本人が積極的に参加を希望していること
- ② 充実した研修ができる健康状態であること
- ③ 保護者の承諾が得られていること
- ④ 事前事後の学習会に必ず参加できること。

10 応募方法 希望者は、次の提出書類(様式1～3)に必要事項を記入し、直接または郵送で提出する。

- ① 参加申込書(様式1)
健康確認書欄に健康状態が良好であることの証明を所属の中学校長から受けること。
- ② 作文用紙(様式2)
テーマ『私が地域間交流セミナーを通してつけたい力』(原稿用紙 800 字以内)
- ③ 保護者の同意書(様式3)

11 応募期間 平成 29 年 11 月 9 日(木)～11 月 17 日(金)
締切 11 月 17 日(金) 午後5時 必着 ※郵送の場合は、南陽市教育委員会に当日必着

12 参加者の選抜 ◎応募書類による書類選抜及び面接により選抜する。

13 面接について

- ① 日 時 平成 29 年 11 月 25 日(土) 午前9時より
- ② 場 所 えくぼプラザ
- ③ その他 申込者多数の場合、応募書類による一次選抜を行う場合がある。
詳細は後日、面接該当者に直接通知する。

14 参加者の決定 ◎申込者全員に選抜の結果を直接通知する。

15 研修前の準備 ◎参加者には、研修前の事前研修会(4回予定)及び保護者説明会を実施する。

16 参加者決定からセミナーまでのスケジュール(予定)

平成29年11月25日(土) AM	面接選考試験 ⇒ 11/29(水)合格者通知発送		
平成29年12月 6日(水)19:00～	参加者・保護者説明会	南陽市役所	大会議室
平成29年12月 9日(土) 9:30～11:45	事前研修会①	南陽市役所	403会議室
平成29年12月24日(日) 9:30～11:45	事前研修会②	南陽市役所	大会議室
平成30年 1月 5日(金) 9:30～11:45	事前研修会③	南陽市役所	403会議室
平成30年 1月13日(土) 9:30～11:45	事前研修会④	南陽市役所	403会議室
平成30年 1月15日(月)19:00～	結団式	南陽市役所	大会議室
平成30年 1月18日(木) ～1月20日(土)	本研修		
平成30年 1月27日(土) 9:30～11:45	事後研修会	南陽市役所	大会議室

17 研修後の報告 ◎各学校の報告会を設定したり、感想文集としてまとめたりする。

18 申込み・問い合わせ先

南陽市中学生地域間交流セミナー事業実行委員会
【事務局】 南陽市教育委員会 学校教育課 指導係
〒999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の1
TEL:0238-40-3211 fax:0238-40-3388
E-mail:gakkyo2@city.nanyo.yamagata.jp

平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー参加者事前説明会

日 時 平成29年12月6日(水)19:00～

場 所 市役所 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 あいさつ

・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

3 参会者の紹介(自己紹介)

・ セミナー参加者 ・ 引率者 ・ 事務局



4 説 明

- (1) 平成29年度南陽市中学生地域間交流セミナーの概要
- (2) 平成29年度南陽市中学生地域間交流セミナーまでに準備すること
- (3) 今後の日程
- (4) その他

4 質 疑

5 その他

6 閉 会





地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う **自立した人材の育成**

◎自立した人材……

- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

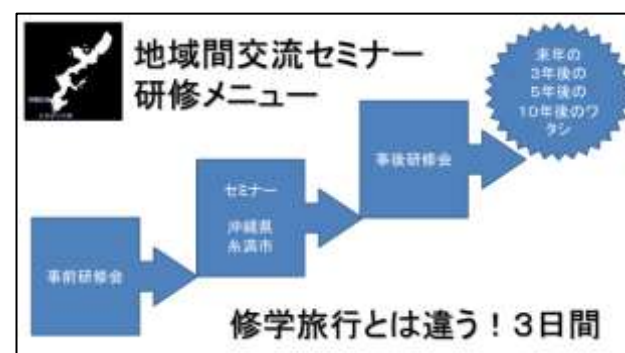
◇ 南陽市中学生としての学びを**発信**する！

そのために……
南陽市と異なる歴史や文化等をもつ
特色のある地域と**交流**する。



研修メニュー

- ・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ **民泊・史跡等の見学**
- ・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ **現地の中学生との交流**
- ・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ **事前・事後の研修**



1日目 1月18日(木)

7:30 南陽市役所出発

↓

11:50 仙台空港発

↓

15:05 那覇空港着

↓

16:30 首里城公園

↓

18:45 サザンビーチホテル&リゾート沖縄

2日目 1月19日(金)

8:30 ホテルチェックアウト

↓

史跡見学 轟壕・山形の塔・平和祈念公園

↓

14:45 糸満市内の中学校

※15:00『交流会』

↓

17:00 対面式

↓

17:40 ホストファミリー宅へ移動

- ★パーランクー作り
沖縄のエイサーや民謡節踊りで使用される手持ちの太鼓をダンボールで作ります。表紙に絵を描いて自分だけのパーランクーを作ります。
- ★ヤーターアングダー作り
沖縄県の揚げ菓子の中でも、生地を作るところから油で揚げるところまで体験をします。
- ★ムービー作り
沖縄で食される菓子の一種で月夜の園で舞った餅を蒸し器で蒸して作ります。健康長寿の祈願のための縁起物のもちもち「ムーダー」です。
- ★三輪体験
沖縄の文化の象徴「さんしん」という楽器でチューリップ、キタキタを演奏します。
- ★フォトフレーム作り
近くの海で拾ってきた貝殻、琉球ガラスを使って写真立てを作ります。



3日目 1月20日(土)

9:00 **ホストファミリー宅 発**

9:30 お別れの会(観光協会)

↓

10:30 国際通り・牧志公設市場

↓

13:15 那覇空港

↓

16:45 仙台空港 着

→ 20:30 南陽市役所 着



事前・事後研修会

- 12月 9日(土)午前 顔合わせ・沖縄を知る
- 12月24日(日)午前 交流会に向けて
- 1月 5日(火)午前 交流会の成功に向けて
- 1月13日(土)午前 交流会のリハーサル
- 1月27日(土)午前 事後研修会



セミナーまで準備すること



- ・体調を整える。
- ・日常の授業をしっかりと！

※ セミナーは、“学び”をフルに使う場

- ・糸満の中学校との交流の準備 → ♪宿題

※ 伝えたいこと、知りたいこと、比べたいこと……

- ・具体的持ち物等の準備

着替えは？ 履物は？ 記録するものは？ お小遣いは？ グループは？
ホストファミリーは？ 一人？……

平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会①

日 時 平成29年12月9日(土)9:30～

場 所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

- ・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤 政彦

3 研修

(1) 本日のねらいの確認

- ① 地域間交流セミナー参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を醸成する。
- ② 地域間交流セミナーで学ぶこと、自らの目的意識を確認する。



(2) ワークⅠ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

- ・ 講話 社会教育課主事 小下 圭介
- ・ 質疑・意見交換

・ ……………休憩……………

(3) ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

- ・ 3人のグループをつくる。
 - ・ 誰が誰を紹介するか決める。
 - ・ 質問し合って、仲間の良さを掘りおこす。
 - ・ 3人で1人ずつの“紹介ポップ”を決める。
 - ・ 紹介し合う(1人1分×3人=3分程度 → × 4グループ=(約15分))
- ※ 仲間の良さを発見しよう。



(4) ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

- ・ これができれば、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

(5) シェアリング

4 その他

5 閉 会



ワークⅠ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

【講話から……】

ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

チーム

メンバー	メモ欄	紹介ポップ
なんよう たろう 南陽 太郎	・柔道部・ゆるきやら好き ・好き嫌が多い。メロンパンが大好き ・妹思いのよき兄。	熱く燃える男 心優しく、燃える男 ミスター 思いやり 意外性の男

【紹介例】

チーム A “心優しく、燃える男” 南陽太郎 さんを紹介します。太郎さんは、現在柔道部に所属し、県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。……

※他のチームのよさも見つけよう！

ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

このセミナーに申し込んだ動機や、今日の講話をふまえて、今、考えている本セミナーにかける思いを言葉にしよう。

★ 第2回 事前研修会

平成29年12月24日(日) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

- ・南陽市の特色(魅力と課題)を考える。
- ・沖縄県の特色(南陽市にない魅力を中心に)を考える。
- ・宿題 資料を読み、南陽市と沖縄の特色について話し合う準備をしておくこと。

★ 第3回 事前研修会

平成30年1月5日(金) 9:30～11:45 南陽市役所 403会議室

- ・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は90分
- ・宿題 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてのアイデアを考えておくこと。

★ 第4回 事前研修会

平成30年1月13日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 403会議室

- ・現地中学生との交流 リハーサル。



沖縄ってどんなところ？

- 琉球王国(1429年～1879年)



沖縄ってどんなところ？

- 太平洋戦争での激戦地(住民を巻き込んだ戦闘)



沖縄ってどんなところ？

- 本土とは異なる食文化



HOPE(ホープ)



沖縄ってどんなところ？

- 空手(唐手)の発祥の地→大正時代に本土で普及し現在に至る



沖縄ってどんなところ？

- アメリカ統治(1945年～1972年)



青年交流のきっかけ



全国青年まちづくりフォーラムin南陽 平成23年9月18-19日



平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会②

日 時 平成29年12月24日(日)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤政彦

3 研修 【 9:35】

(1) 本日のねらいの確認

- | |
|---|
| <p>① 南陽市の特色（魅力と課題）を考える。
“糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力”につなげる</p> <p>② 沖縄県の特色（南陽市にない魅力を中心に）を考える。
“糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力の理由”につなげる</p> |
|---|

(2) ワークⅠ 南陽市の特色を考えよう！

『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』 【 9:45】

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表（各グループ 3 分） 【10:15】
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

……………休憩……………

(3) ワークⅡ 沖縄県の特色を考えよう！

『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』 【10:45】

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表（各グループ 3 分） 【11:15】
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

(4) まとめ

4 その他

5 閉 会



★ワークⅠ 『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』【9:35】

★ワークⅡ 『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』【10:25】

★ 第3回 事前研修会

平成30年1月5日(金) 9:30～11:45 南陽市役所 403会議室

・現地中学生との交流について

宿題 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてアイデアを考えておくこと。

・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は60分程度

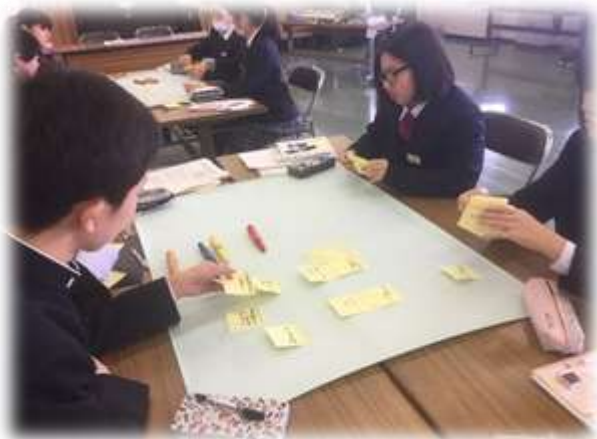
○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」：どんな出会いにしたいのか

「交流」：できるだけ多くの対話をしたい

「別れ」：どんな別れにしたいのか

※主導権は我々にあり！ 他人任せにしない！



平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会③

日 時 平成30年1月5日(金)9:30～

場 所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

・南陽市教育委員会 学校教育課長 佐藤政彦

3 研修【9:30】

(5) 本日のねらいの確認

- ① 現地中学生との交流の内容を決定する。
- ② 地域間交流セミナー当日までに準備することを確認する。

(6) ワークⅠ 現地中学生との交流について

『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』【9:50】

- ・ 決まっていることを確認する。
- ・ グループで協議
- ・ グループ間発表を受けて、現地中学生との交流内容を決定する。

※ 主導権は我々にあり！ 他人任せにしない！

○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」:まずはどんな出会いにしたいのか ※一昨年は名刺をいただいた。

・短い時間で、自分たちのことを少しでもわかってもらえるには・・・

・その後の活動を和やかに進められるようにするためには・・・

だとすると、代表者か or 分担しながら全員か

パソコンを使用か or 手作り資料を使用か or スピーチのみか

「交 流」:できるだけ多くの対話をしたい

だとすると、全員対全員で討論 or グループ協議か

グループ協議だとすると人数は？ 2人組 or 3人組 or 1対1

途中で相手を替えて多くの意見を聴く or 同じ相手と深く対話する

「別 れ」:どんな別れにしたいのか

・貴重な時間をいただいた学校へ、生徒へどうする？

・今後も関わりをもち続けたい。

感想・お礼は？ 代表 or 全員

.....休憩.....

(7) ワークⅡ 『当日までに準備することを確認する。』【11:30】

- ・ schedule の確認
- ・ 役割分担

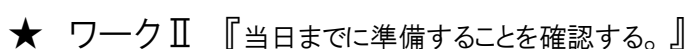
(8) シェアリング

4 その他

5 閉 会



- 期 日 平成30年1月19日(金)
- 訪問校 糸満市立高嶺中学校 ※沖縄県糸満市の中学生との交流
- 時 間 14:45～15:05【交流:50分】～15:55～16:15
- 交流のイメージ



日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	29	30
事前 研修会②						
31	1	2	3	4	5	6
					事前 研修会③	
7	8	9	10	11	12	13
						事前 研修会④
14	15	16	17	18	19	20
	結団式 19:00～ 市役所			★地域間交流セミナー		
21	22	23	24	25	26	27
						事後 研修会

ホテルの部屋割り

	氏名	性別	学 校
1		男	沖郷中学校
		男	赤湯中学校
		男	赤湯中学校
		男	赤湯中学校
2		女	赤湯中学校
		女	赤湯中学校
		女	宮内中学校
3		女	沖郷中学校
		女	赤湯中学校
		女	宮内中学校
		女	宮内中学校

【☆ 本日の学びを振り返ろう】

★ 第4回 事前研修会

平成30年1月13日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 403会議室

- ・現地中学生との交流 リハーサル
- ・役割分担について

★ 地域間交流セミナー結団式

平成30年1月15日(月)19:00 南陽市役所 大会議室

- ◎ 結団式の進行
- ◎ 団員代表決意の言葉



平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会④

日 時 平成30年1月13日(土)9:30～

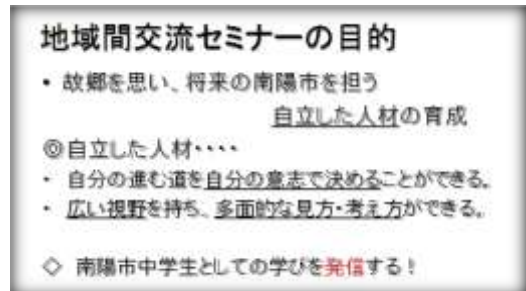
場 所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

佐藤 政彦 学校教育課長



3 研修【9:35】

(1) 本日のねらいの確認

(ア) このセミナーに参加する自分の決意を行動化できるか確かめる。

(イ) 現地中学生との交流の進め方を理解する。

※ 挨拶等分担を決める。持ち物等の確認をする。

☆ 帰ってきたら報告の義務がある！

(2) ワークⅠ 『現地中学生との交流の進め方を確かよう！』

前回決まったことの確認

(3) ワークⅡ 『交流会に必要な準備をしよう！』

準備の必要なものは？

(4) ワークⅢ 『挨拶等の役割分担をきめよう！』

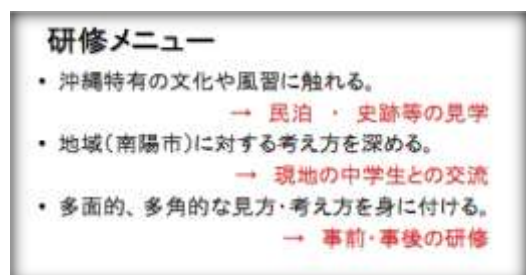
(5) ワークⅢ 交流会のリハーサルをしよう！



(6) その他 持ち物を確認する【11:35】

4 その他

5 閉 会



高嶺中学校 参加者名簿

No	氏名	グループ	性別		学級
1		1	男		2年1組
2		1	女		2年2組
3		2	男		2年1組
4		2	女		2年1組
5		3	男		2年2組
6		3	女		2年1組
7		4	男		2年2組
8		4	女		2年2組
9		5	男		2年1組
10		5	女		2年2組

★ワークⅠ 『現地中学生との交流の進め方を確認しよう！』

- 期 日 平成30年1月19日(金)
- 訪問校 糸満市立高嶺中学校 ※糸満市の中学生との交流
- 時 間 14:50～15:05【交流:50分】～16:05
- 交流のイメージ

14:50 15:05 15:55 16:05

出会い	交流会【50分】 テーマ 『 違いと共通点を発見しよう！ 』	お別れの会
-----	-----------------------------------	-------

※ 交流会の主体は、南陽の中学生！

※ 高嶺中の生徒は……………2年生 10名

1つ目は、

南陽

自分がこのセミナーで何を目的としていたのか、もう一度振り返ろう。

高嶺

高嶺

南陽

- 南陽2人 対 糸満2人 で互いがどんなことを考えているのか語り合う。双方向のやり取りを目指す。(南陽のこと→沖縄のこと→質問する)
- ペアで高嶺中の生徒に問いを投げかけることで南陽の“これから”、自分の“これから”、南陽のよさの再発見につなげる。目的の達成をはたす。

※50分ずっと同じメンバーで交流する。

(例)今日皆さんと話したい、皆さんの考えが聞きたいテーマを3つ用意してきました。
(例)質問カードの準備など

「出会い」

- ・あいさつ
- ・自己紹介 (名前のみ)
- ・方言クイズ
- ・流れの説明

「別れ」

- ・代表あいさつ
- ・お土産を渡す
- ・校長先生のお話
- ・握手でお別れ

◎この交流会は「どうなれば」成功？

・自分が・・・

・参加したみんなが・・・



★ワークⅡ 『準備の必要なものは？』

★ ワークⅢ 『挨拶などの役割分担を決める。』

	場面	
1	15日結団式 進行	
2	15日結団式 代表挨拶	
3	18日出発式 進行	
4	18日出発式 代表挨拶	
5	19日高嶺中交流会 進行	
6	19日高嶺中別れの会 代表挨拶	
7	19日民泊受入れ式 代表挨拶	
8	20日民泊お別れの式 代表挨拶	
9	20日 帰りの会 進行	
10	20日 帰りの会 代表挨拶	

※役割があたらない人は、イレギュラーな場面で対応していただきます。

★ワークⅣ

交流会をよりよいものにするために、リハーサルをして気づいたことをメモしよう



★ その他 『持ち物を確かめよう』

	NO	持ち物・服装	備考
	1	学校の制服	基本的に、セミナー中は制服で行動します。
	2	学校のジャージ	ホテルや民泊する際、着用します。
	3	下着・靴下等	2泊3日分
	4	着替え	基本的に制服で行動しますが、暑さ寒さ対策等必要だと思われるもの。
	5	洗面用具・タオル等	個人で使うものの準備。 必要があれば、ドライヤー等
	6	薬	必要な人。 いつも飲んでいる薬、虫除け等
	7	軍手・帽子	見学時に着用。安全面も考慮しましょう。
	8	靴	履きなれた、歩きやすい運動靴等
	9	おこづかい	10,000 円以内。買い物をする時間は限られています。また、暑さ対策として、ペットボトル等を購入する場合があります。金種を分けて持参しましょう。
	10	懐中電灯	各自1つ持参すること。見学地で使います。頭につけるタイプのものが望ましい。
	11	デジカメ	必要な人のみ。新たに準備する必要はありません。しかし、皆さんには、報告する義務もあります。記録は重要です。
	12	研修用具	筆記用具・事前学習資料・自分で集めた資料等、記録は重要です。
	13	雨具	折りたたみ傘等
	14	エプロン・三角巾	民泊家庭で調理するときに使います。

※事前説明会資料も参照のこと

★ 地域間交流セミナー結団式

平成30年1月15日(月)19:00～

南陽市役所 大会議室

★ 事後研修会

平成29年1月27日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 403会議室

宿題：高嶺中学校交流会の感想文下書き

平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー結団式

日 時 平成30年1月15日(月)19:00～
場 所 南陽市役所大会議室

【進行 赤湯中】

1 開会のあいさつ

2 教育長あいさつ

南陽市教育委員会 教育長 猪野 忠

3 セミナー参加者紹介

① 団 長

② 引率者

③ セミナー参加中学生【自己紹介】

学校名・氏名・セミナーに向けて一言

4 セミナー参加者代表挨拶 【 宮内中 】

5 激励の挨拶 南陽市長 白岩 孝夫 様

6 閉会のあいさつ

7 事務連絡



※ 記念撮影



平成29年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事後研修会

日 時 平成30年1月27日(土)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ 佐藤 政彦 学校教育課長

3 研修【9:35】

(1) 本日のねらいの確認

セミナーを振り返り、私たちが発信する内容をはっきりさせる。

セミナーを振り返り、自分たちが発信する内容を整理する。

ワークⅠ 一番心に残ったこと。

現地で見聞きしたことや資料から考えたことを交流する。

ワークⅡ 各学校での報告会について考える。

ワークⅢ 「高嶺中交流会」感想文の清書

地域間交流セミナーの目的

・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う

自立した人材の育成

◎自立した人材……

・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。

・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

(2) ワークⅠ “一番心に残ったことは何だろう？”

○ 一番心に残ったことをキーワードで表そう

○ セミナーで身につけた力をつかう ディスカッション。

・ 現地で見聞きしたことや資料から感じた思い

(3) ワークⅡ 発信する内容をはっきりさせる。【10:20】

『これからの南陽市に向けた、私たちの思い……。』

(4) ワークⅢ 『高嶺中交流会』感想文の清書 【11:00】

(5) まとめの話

4 その他 ・学校ごとの報告会：市教委から依頼 → 実施 → 報告(アンケート)

・【連絡】 セミナー全体を通した感想文 1200字程度 提出(2・13)→ 報告書

5 閉 会



誰に・・・
どんなことを・・・
どんな風に・・・
「私は、こんなことを～
に伝える。」



セミナーを振り返って



違いから見つける良さ

南陽市立沖郷中学校 2年

今回私は、「同じ日本でも様々な違いがあるのはなぜか。」という疑問を実際に自分の目で確認したいと思い、このセミナーに参加しました。事前研修会、2泊3日の研修、事後研修会を通して、今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができました。

事前研修会をする中で不安もありましたが、団長がおっしゃっていた「自分の殻を破る」ということを心に置き、話し合いなどができました。また、4回の事前研修会では、グループ活動も行いました。そこで、南陽市の気候だからこそ温泉のよさが生かされるという意見が印象に残っています。自分一人では思い浮かばないようなことも出て、話し合いの意義を感じました。

そして当日。私達は多くの方々に見送られ出発しました。早速、気温の差に驚かされました。私が2泊3日の研修で、一番心に残ったものとして、平和学習があります。その中でも、轟壕と平和祈念公園で見聞きしたものは忘れられません。私達はライトで照らしながら、ガマに入ったものの、それでも暗くてひんやりとした感じがとても怖く感じました。こんな所に700人が何日も過ごしていたのか、もしも私がそこにいたら・・・と考えました。現在は綺麗に保たれていましたが、当時はあちこちに遺体が転がっていたと聞き、胸が締めつけられました。平和祈念公園には平和の礎があり、戦争があったことを多くの人に伝えていっているのだと思いました。資料館には、当時の悲惨な様子を物語っている写真が多く見られました。特に母親が赤ん坊を抱いたまま亡くなった写真を見た時は、涙が出そうになってしまいました。私達が家族と普通に過ごしていられるということのありがたさに気づかせてくれた一枚でした。実際にガマに入って話を聞いたり、資料を見たりして、戦争は命と共に人の心も奪っていくのだと知り、私達が思っている以上に痛ましいものなのだと思います。また、研修中に国際通りで不発弾が見つかりました。今でも戦争の爪痕が残っているということを実感して、終戦はしたものの戦争は沖縄にとって、身近なものであるということを知りました。

南陽市に帰ってくると、家族が「おかえり」と言ってくれました。以前は当たり前のことだと思っていましたが、家族がかけてくれた言葉が身にしみました。やはり、当たり前を当たり前にできることは幸せなのだと感じました。今回、教科書などでは知ることができないことを、自分の目と耳と肌で学んできました。これをそのままにするのではなく、後世に伝えていく任務が私にはあります。戦争をやめさせることは難しいことですが、戦争について受け継いでいくことはできます。まずは、家族や友達など、身近な人に発信していくつもりです。

自分に「今」出来ることは何か

南陽市立沖郷中学校 2年

「たくさん沖縄について学習し、楽しんでいきます！」

期待と不安が入り混じり参加した事前説明会。そこでは、初対面の中学生在がたくさんいる中で、とても緊張しながら自己紹介をしました。しかし、皆さんが温かい拍手をしてくれて、不安が一気に吹き飛び嬉しかったです。

最初の研修会。沖縄のことを知りつくしている事務局の小下さんの講話は、とても興味深いものでした。特に、アルカディオンの格好をして山形の特産物のぶどうを売ったり、沖縄そばや沖縄の郷土料理を紹介したりした等を伺い、行くのが楽しみになりました。

事前学習会では、高嶺中学校との交流会についてどのように運営するか、南陽の良さをどう説明するか、龍上海のラーメンか雪のどちらをお土産にするかなどを話し合いました。南陽市の紹介を考える時に、菊や桜の美しさや、果物がおいしいことなど、改めて南陽の良さに気づきました。僕は、特にお土産の雪を渡すときの、中学生の反応が楽しみでした。

出発式では、沖縄の食文化を知ることの楽しみ半分、故郷を離れる寂しさもありました。飛行機から降りて一番に、「暑い！」と思いました。同じ日本でも、これほど違うのだと実感しました。

特に印象深く思ったのが、轟壕の見学です。そこは、足元が悪く滑りやすくなっていて、入口が80センチくらいで、中は真っ暗な空洞でした。そこで、戦時中の暮らしや戦争での被害について教えていただきました。その内容は教科書やテレビでは語ることのない重いものでした。例えば、野ネズミを捕まえてそのまま食べたり、赤ちゃんの泣き声で米軍に居場所がばれてしまうので窒息させて殺したりなど、今では想像もできないほど怖いことを聞きました。最近は北朝鮮とアメリカの対立が激化してきて、戦争になると必ず日本も巻き込まれると思います。もう二度とこのような悲惨な戦争を起こさないようにしていかなければいけません。

また、高嶺中学校との交流会では、エイサーの歓迎で迎えていただきました。山形の花笠踊りは、ごく一部の中学生しかできません。沖縄の伝統を受け継ぐことは、僕達も見習わないといけないと分かりました。意見交換の中で、中学生の明るく話す姿が印象深く残りました。沖縄の人達は誰とでもすぐに打ち解けられるような人柄に憧れを抱きました。このような人になれるように笑顔を心がけて生活していきます。

この研修で、平和学習や高嶺中学校との交流を通して、自分の目標である多面的な見方をすることが達成できました。今回関わった全ての人に感謝し、学んだことを多くの人に伝えていきます。

交流セミナーに参加して

南陽市立赤湯中学校 2年

この交流セミナーに私は明確な目標がありました。それは「人と関わり合う力を身に付ける」です。沖縄の中学生との交流や民泊などを通して、自分一人だけであっても、初めて会う人とコミュニケーションできるようになりたいと思いました。申し込んだ後は、面接で自分の気持ちを全て伝えることを意識しました。本番は過剰に緊張しなくて良かったです。目標を達成するためにもう一つ乗り越えたい壁がありました。それは他中の人と仲良くなる事です。今回は11名のうち、5人は宮中と沖中の人だったので、早めに仲良くなりたいと思っていました。第1回目は厳しかったけど、2回目以降は研修で隣だった人や、付箋を貼るチームの中で会話して、沖縄に行くまでに全員と話せるようになれました。そこから、事前研修は成功、充実のためには大切だと感じました。

また、見習いたいと思った人もいました。レベルの高い人達の発表や説明を聞いて、「こう話すと説得力が増す」「理由が明確になるためにこれを話す」という事を学んで、沖縄から帰ってきた後も活用していきたいと思いました。

準備をして迎えた沖縄1日目は首里城で始まり、いいスタートを切れたのではないかと思います。日本では無い日本「琉球王国」については、戦争についてぐらい興味があったので、視界に入る物一つ一つが新鮮で美しかったです。日が暮れた後のホテルがとても豪華で、改めて、税金で行かせていただいている感謝の気持ちを持とうと思いました。そしてたくさん学ぼうと決意しました。

2日目は世界が変わる様な事がたくさんあり、何から書いていいか分からないのですが、まず、実際に地上戦の際、市民が逃げていたガマを見学して、話を聞いて苦しみ伝わってきたし、電気を消したら泣きそうになるほど暗かったし、本当に貴重な体験をさせていただいたと思いました。

平和祈念公園へ行った時は石に一人一人の名前が刻まれていて、一人の名前の分だけ人生があるという事にとっても胸を締めつけられました。資料館には戦時中の写真や映像、軍服などがあり、それを見て「人を殺すってどういう気持ちなんだろう」「死を見つめるってどれだけの恐怖なんだろう」と考えました。それは僕には分からないけど、自信を持っていえるのは、人は人が死ぬ事を悲しまなくてはならない、という事です。それができない人は人では無いと思います。つまり、戦争は人を人で無くしてしまうのだと分かりました。

今回の研修を終えて、目標の面では十分に達成できたと感じています。なぜなら、今、こうして作文に自分の感想を書けているからです。他にも学んだ事はたくさんあります。それは、今後の行動で示したいと思います。平和な日常を願って作文を終わります。

地域間交流セミナーを通して

南陽市立赤湯中学校 2年

僕はこのセミナーを通してつきたい力が三つありました。それは、「戦争についての考えを深めること」、「コミュニケーション能力を高めること」、「学んだことを発信すること」です。これらの力をつけるために、事前研修からいろいろな活動を行ってきました。

計4回の事前研修では、沖縄の歴史や文化について学ぶことができました。高嶺中学校との交流会の準備では、仲間と協力しながら、スムーズに準備を進めることができました。僕はその中で方言クイズの担当になりました。高嶺中学校の人に分かってもらえるようなクイズを作ろうと思い、作成しました。その頃に最後の事前研修が終わり、「もう一週間後には沖縄に行くのだ」という実感がわいてきて、とてもワクワクしていました。ついに当日、出発式を終え、バスに乗った時、保護者の方がたくさんいて、バスが見えなくなる位まで見送ってくれて、「この研修は自分一人では行くことができなかった」「たくさんの人に支えられているのだな」と感じました。バスや飛行機の中では、他中の人ともたくさん話をするのができたし、交流会の確認などもすることができて良かったです。沖縄に到着して飛行機から降りた瞬間、とても暑く気候の違いを感じることができました。

1日目は、首里城を見学しました。琉球の時代のお話を聞いたり工夫された構造を見たりして、知らなかったことをたくさん学ぶことができました。ホテルに向かうバスの中ではバスガイドさんと楽しい時間を過ごすことができました。ホテルはとても大きく驚きました。夜ご飯はとても豪華でとても美味しかったです。夕食後、最後のミーティングをして、翌日の高嶺中学校との交流の流れなどをしっかり確認することができたので良かったです。

2日目は、高嶺中学校との交流がありました。交流会では、テーマ「違いと共通点を発見しよう」に沿って交流しました。僕達の班では、積極的に質問をしたり、話題をもちかけたりして、とても良い交流会にすることができたと思います。また、住所を交流したり、連絡先を教えあったりしたので、これからも関係をもてるようにしていきたいです。2日目から3日目にかけて平和学習も行いました。改めて戦争の悲惨さや残酷さを学ぶことができました。平和に対する考えがとても深まり良い経験をすることができました。

3日目は、国際通り、牧志公設市場に行って大きな魚を見たり、豚が丸々一匹解体されている物を見ることができました。他にもいろいろな所に行ったり見たりして、とても貴重な経験をすることができました。

僕は今回のセミナーで、三つのつけたかった力をしっかりつけて帰ってくる事ができたと思います。今回つけた力をいろいろな所で発揮できるようにしていきたいです。

目標を持つことで

南陽市立赤湯中学校 2年

僕は、このセミナーに参加するにあたり二つの目標を立てました。それは、「初めて会った人とも積極的にコミュニケーションを取って交流すること」と「南陽市の良さを沖縄の人に伝えること」です。事前研修や二泊三日の研修、そして事後研修に参加して、これらの目標を達成することができたと思います。

沖縄に行く前は、初対面の人と話すときに恥ずかしがってしまっていて意見を出せなかったり、人前で話したり発表したりするときに緊張したりしていました。しかし、そんな自分を変えたいと思い、セミナーで高嶺中学校の生徒と交流するときや民泊体験の際には自分から話すことを意識しました。すると、少しずつですが「恥ずかしい」という気持ちがなくなり、積極的に話すことができるようになりました。この力は、三年生になっても、高校や大学に行っても使う力だと思います。まずは、来年度の委員会などで意見をたくさん出せるようにしたいです。

沖縄で過ごした三日間の中で特に心に残っていることは、轟壕で聞いたガイドさんの話です。ガイドさんの声のトーンは、とてもリアルでまるで実際の映像を目の前で見ているようでした。「食べるものがなくてロウを食べて亡くなった人の話」や「赤ちゃんが泣くと居場所が見つかるので鼻と口をふさいで殺した話」、「一度もガマの外に出ることなく、太陽の光を浴びないままに亡くなってしまった子どもの話」など、具体的に覚えてしまうほど、衝撃を受けました。ガイドさんの話を聞いて、戦争は二度としてはいけないと改めて思いました。

現地に行った人しか聞けない貴重な話を聞けたので「ぜひ友達にも伝えたい」と強く思っていたところ、学校で発表する機会をいただきました。全校朝会では、最も伝えたかった戦争の悲惨さと平和の尊さについて、スライドを使って発表しました。学年朝会では、沖縄の文化や南陽市との違いについて発表しました。どちらも、興味を持って聞いてもらえて嬉しかったです。

僕は、このセミナーに参加して考える力もついたと思います。理由は、高嶺中学校との交流の準備をする際にアイデアを出したり、本番当日も、周りの人の考えを聞いて学びを深めたりすることができたからです。これからは、常によく考えてから行動に移すことを心がけていきたいです。そして、このセミナーでつけた力や学んだことをいかして、自分の進路を切り開いていきたいと思っています。

挑戦

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、「どんな事にも積極的に挑戦できるようになる」「平和についてもっと理解を深める」という、主に二つの目標を掲げ、このセミナーに参加した。まったく初対面の人達と話し合いなどをする事に多少の不安があり、第1回目の研修会の時には、どうしようかとドキドキしていたが、みんなが笑顔で話しかけてくれて、一気に緊張がほどけた。それからの事前研修会では、回数を重ねるごとに、徐々に互いの仲が深まり、当日に向けてのムードが高まっていった。

そして当日、沖縄の文化や歴史を隅々まで吸収してくる位の意気込みで、空港に向かった。那覇空港に着いたとたん、暑くてすぐにブレザーを脱いだ。みんなも、沖縄の暑さに驚いていて、気温にも大きな違いがあるのだと改めて気づくことができた。

一番初めに首里城に向かい、積み重ねられた歴史や、琉球王国時代の文化などを学んだ首里城も戦争に関わっていたことを知り、意外と身近な所に戦争が隠れているのではないかと思った。

2日目は主に平和学習で、戦争について深く考えさせられる場所をたくさん廻った。

特に、平和祈念公園では、自分がどれだけ戦争のことが分かっていなかったかを身にしみて感じた。亡くなられた方の遺体の写真や衣服など、教科書ではみることのできなかった、リアルな戦争を体感し、とても胸がしめつけられた。自分の大好きな人達が、目の前で次々と死んでいくけど、流す涙でさえ枯れてでてこない……そんな状況は私には絶対耐えられないと思った。でも、戦時中はそれがあたり前で、周りで人が死んでいてハエがたかっている、川が血の色で染まっていた、なんとも思わなくなるということを知った。人間をそこまで変えてしまう戦争を二度と繰り返してはいけないと強く強く思った。

平和学習を一通り終えた後、民泊をさせていただく方々と対面し、それぞれの家へ分かれた。私達の家庭では、ちんすこう作りをして、民泊をうけいれてくださった方とたくさん話をした。会話の中で、「常に問題意識をもって物事をみつめる」という言葉を教わった。それは、今を生きる中でも、これから生きていく中でも大切だと思うので、この言葉を胸にとめて生活していきたい。

この三日間は本当にあっという間だったし、たくさんの刺激を受けることができたとても良い経験だったと思う。初めに目標をたてた、「どんな事にも積極的に挑戦する」に一步近づけたし、今ある日常こそが平和なのだと、自分なりに平和についての答えをだすことができた。物事に対して、常に問題意識をもち、今回学んだ生の戦争や平和について、発信していきたい。

平和とは

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、地域間交流セミナーを通して、多くのことを学び、成長することができました。

平和学習では、戦争について知ることができ、平和について深く考えることができました。轟壕では、戦時中の生々しい話を聞いてとても怖いと感じました。特に、生まれてきてすぐの子どもを親が殺してしまうという話を聞いたときはとても悲しい気持ちになりました。ですが、その時代では仕方がなかったのではないかと思います。そして、今、生活できていることがどれだけ幸せなのかを実感しました。また、実際に人々が生活していた場所で話を聞いたことは、とても貴重な経験となったと思います。

「戦争をはじめるのは人間、戦争をなくす努力をするのも人間」という言葉が心に残っています。これは、平和祈念公園にあった言葉です。たくさんの人が死んでしまい、人が人ではいられなくなる戦争はさせてはいけない、そのために私たちが努力しなくてはいけないと感じました。また、今の生活があるのは、その時代の人々がいたからなのだと感じました。だから、今を精一杯生きなくてはいけないと思います。そして、私たちはそのことを発信していかなくてはいけないと思いました。

民泊や交流会では、沖縄の人々の戦争・平和に対する思いを知ることができました。また、様々な人との交流を通して沖縄の人々の温かさを知ることができました。そして、交流を通して会話力・コミュニケーション力をつけることができました。今までは、自分からいくことができず、会話がはじまってもし続かないことが多くありました。ですが、意識をし、自分から話しかけたい、様々な話題を出したりすることができ、前より会話を続けられるようになりました。

交流会で高嶺中学校のみなさんに雪をプレゼントしたときにとても喜んでくれました。その時は、とてもうれしかったです。また、民泊で宿泊した家庭の方々とたくさん会話ができたのでとても楽しかったです。

全体を通しては、行動力がつきました。気づいたら自分から行動することができていました。ですが、意見を求められたときや何かをやって欲しいと言われたときに、一番に「はい」と手を挙げることはできませんでした。だから、そのような場面での積極性を付けたいと思いました。また、研修を通してもっとたくさんの方に挑戦していこうと思いました。

これからは、研修で学んだことを忘れず、ついた力を使って、もっと発信していきたいです。また、様々な課題が見つかったので、改善していき、成長していきたいです。

伝える力

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、地域間交流セミナーを通して、「平和が普通だと思ってはいけない」と学びました。セミナーに関わる前は、沖縄戦についてはほとんど知ることがなく、唯一の被爆国ということで、広島や長崎の方が強く印象にありました。しかし、セミナーに関わって、沖縄戦について調べていくと、戦争の悲惨さや恐ろしさ、命の大切さなどを考えるようになりました。いざ、セミナーで沖縄に行ってみて、平和学習や交流会を通して、多くの人達の思いを聞き、学ぶことができました。

初めに轟壕へ行くと、私はとても恐怖を感じ心臓がうるさく鳴りました。自分達の足で一步一步踏みしめてガマの中に入り、ガイドさんの話を聞くと、驚いた話がたくさんありました。その中でも、「赤ちゃんが泣くと米軍に見つかってしまうから、赤ちゃんを殺した。」という話や、「二週間もの間ガマの中にいた。」という話など、教科書では知ることが出来ない話をたくさん教えてもらいました。私達は、あの暗いガマに20分ほどしかいなかったのに、ガマから出た時、光を見て命の重みを感じました。

平和の礎と平和祈念資料館では、石碑に敵味方関係なく沖縄戦に関わって亡くなった人の名前が刻まれてあり、もう二度と戦争はしてはいけないなと心から思いました。また、資料館の中は、当時の写真や、証言が展示してあり、自分達で他の人達に伝えなければいけないと思いました。

ひめゆりの塔では、自分達と同じくらいの女の子が沖縄戦の中で亡くなってしまった記録や当時の悲惨さが書いてある資料などが展示されていて、私達と変わらない年の子までもが戦争に巻き込まれていたということを知りました。

他にも、高嶺中学校との交流や、民泊でもさまざまな人の戦争への思いを聞くことができ、教科書や普段の生活では知ることができないことを知ることができました。

私は今回のセミナーで、「平和が普通だと思ってはいけない」、「命の大切さ」と共に、今を一生懸命大切に生きるということを学ぶことができました。私たちは、今日、死んでしまうと思うことなく、安心して学校や普段の生活を送ることが出来ています。私達がまずしなければならない事は、戦争の事をより多くの人に伝える事もそうですが、毎日の生活を友達と一生懸命頑張っていくことだと思います。今は、いじめがあったり、自ら命を絶ったりする人がいます。私は、戦争を止める事や、苦しみを取り除く事はできないけれど、今、悩んだり困ったりしている友達の相談にはのることができます。私は、そんな一人で悩んでいる友達を独りぼっちにすることなく、毎日、全員で一つにまとまって充実した生活が出来るよう努力していきます。

そして、自分の学年や、学校、南陽市の全ての方々が、毎日笑って過ごせるようにしたいです。

地域間交流セミナーを 通して感じたこと

南陽市立宮内中学校 2年

私は今回のセミナーを通して特に印象に残ったことが大きく分けて二つあります。

一つ目は、民泊をしたことです。私は大城さんという方のお家に民泊させていただきました。この民泊で沖縄の方の優しさ、フレンドリーさを感じることができました。そう感じることでできた理由が三つあります。

一つ目は道の駅「いとまん」で受入式をした時に民泊家庭のみなさんが沖縄の伝統の楽器と歌を披露してくださったことです。民泊家庭のみなさんが私達のために披露してくださって歓迎してくれているのだなと感じることができたからです。

二つ目は私が民泊させていただく大城さんの家に着くまでの間にたくさん話しかけてくださったことです。たくさん話しかけてくださったおかげで、緊張がほぐれリラックスして過ごすことができました。

三つ目は、大城さんが本当の家族のように接してくださったことです。私のことを家族が呼ぶように「有梨」と言ってくださったり「私の事をバァバと言ってね」と言ってくださったりと、とても距離を近づけて接してくださり、普段のように過ごすことができました。

この三つの理由から、沖縄の方の優しさやフレンドリーさを感じることができました。

特に印象に残ったことの二つ目は、日本で唯一地上戦が行われた沖縄で戦争について学んだことです。沖縄には南陽市とは違い、戦争についての資料館や、戦争の跡が残っていて、そこで見たり聞いたりしたことを通じて戦争はまだ終わっていないのではないかと、戦争はもう二度と繰り返してはいけないと思いました。そう思ったのには二つの理由があります。

一つ目は70年以上も前の戦争で残った不発弾が今も沖縄で見つかっていて、私達がちょうど行った国際通りでも見つかったことです。またそうした不発弾によってケガをしたり亡くなったりした方もいて、全て取り除くには70年以上もかかるということをお聞きして、全て取り除かれるまで沖縄の方々にとっては不安が残ると思ったからです。

二つ目は戦争中に実際に隠れていた壕の中でその時起こったことを話していただいたことです。産まれてすぐ亡くなってしまった子供の話や食べ物がなくロウソクを食べていたという話をお聞きして、とても悲しくなったし、胸が痛くなったからです。

この二つの理由から、戦争はまだ終わっていないのではないかと、もう二度と繰り返してはいけないと思いました。

私は今回の交流セミナーで沖縄の方の優しさやフレンドリーさは、とても残酷な戦争があったからだと思いました。そして、もう二度と繰り返さないようにしようと思っているからそうした接し方をして下さるのではないかと思います。

セミナーで感じたこと

南陽市立宮内中学校 2年

私はこのセミナーに行く前の事前学習で、他校の人達との交流と積極的に話しかけることを大切にしていました。何故ならこのセミナーに参加を希望した理由は、多くの人と関わる事を大切にしたいと思ったからです。事前の学習4回を通して、沖縄に行って学習する事への意識も少しずつ高まっていきました。

当日。家族や先生方に見送られていざ出発。初の飛行機。飛行機を降りるとすぐに暑く感じました。そこから私は、同じ日本でもこんなに気候が違うのだと感じました。沖縄セミナー1日目となるその日。見学場所は首里城公園。ガイドさんからの説明を聞いていると、昔は戦争の拠点地だった事や、北殿にペリーが訪れた事等歴史があり、今も大切に保管されていることが分かりました。

2日目は平和学習を行いました。特に印象深かったのはやはり「轟壕」です。轟壕は戦争中に軍人や一般の人達が隠れていた洞窟だということを初めて知りました。ガイドの方と皆で実際に手をついて、足元が滑るような所でした。中は空気がもわっとして狭くてライトを消せば、目を見開いても何も見えない空間でした。すごく怖くて素直に、早く出たいと思いました。でも、当時の外は爆弾の雨だったため、辛く苦しい状態が2週間も続いていたそうです。食べ物も無く、死臭と蛆虫も酷かったそうです。それらの事を聞き、私は涙が出そうになりました。戦争は苦しく、辛く、悲惨なものだと強く強く感じ、二度と戦争は起こしてはいけないものだと実感させられました。一緒にいた皆も私と同じ気持ちだったと思います。

その後も、ひめゆりの塔や平和祈念公園で、たくさんの方々が亡くなられたこと、酷い方法で殺した軍人等のことも知ることができ、心に突き刺さる程、悲惨なものだと思いました。

その後は、高嶺中学校の生徒との交流があり、そこでは山形と沖縄の相違点、共通点について話し合いを行い、50分では足りない程、とても中身の濃い時間を過ごすことができました。高嶺中の方とは、住所交換を行ったので、今でも連絡を取っています。

2日目の夜は民泊でした。初めて会ったのに、温かく、優しく、フレンドリーに接して下さり、本当のお父さん、お母さんのように会話をしました。ちんすこう作りや、海の散策を通して良い思い出ができました。

3日目は国際通りでの不発弾処理に遭遇しました。「戦後70年越しているけど、まだ終わってはいない」という沖縄の方の言葉から伝えたかった事はこういう事なのだと思います、恐怖を覚えました。そのように感じたまま、山形へと帰ってきました。

このセミナーは、たくさんの方々に支えられながら体験できたことでした。支えて下さった方々への、感謝の気持ちと、学んだことをこれからも大切にしていきたいです。

三日間の学びを

一生の成長に

南陽市立宮内中学校 2年

4回もの事前研修会を経て迎えた地域間交流セミナー。沖縄の全てが新しく、一瞬の出来事の中にも学びが感じられるような、とても充実した三日間になりました。

地域間交流セミナーの私の目標は、初対面の人とも積極的にコミュニケーションをとることと、平和について考える力をつけることでした。私は二つとも達成できたと思います。

三日間の中で特に印象に残っていることは二日目の平和学習です。轟壕でお聞きした話から、ねずみの死体を食べるなど人間の生活とは思えない程、苦しい生活が続いていたことや死体を見ても苦しんでいる人を見ても無感情でいたり、命を落とす人が大勢いたりしたことを知り、衝撃を受けました。

資料館の写真や映像は、戦争の恐ろしさ、悲惨さを物語っているようで、それらを見ると、自分も戦争を経験したかのように胸が締めつけられました。

戦争は恐ろしいということだけでなく、平和祈念公園では、平和を願う人々の思いも感じることができました。世界地図が描かれた平和の泉、そして敵・味方関係なく設置された平和の礎。戦争を通して、世界が平和の大切さに気づいたからこそ、今私達はこんなにも平和に過ごすことができているのだと実感することができました。

地域間交流セミナーの最大の目的である交流会では高嶺中学校のみなさんと中身の濃い話し合いをすることができたと思います。山形の方言クイズでは練習してきた通り元気に進めることができ良かったです。

話し合いに入り、私のグループでは食・伝統・自然について共通点と相違点を話し合いました。心に残っているのは、十五夜の時期に沖縄で行われる綱引きの行事です。これに用いられる綱は全て地元の人々で協力して作ったものだと聞き、とても感心しました。伝統を大切に守り続けているというところが沖縄の良い所だと気づくことができた交流会になりました。

民泊では井出さん家族にお世話になりました。初めは緊張や不安もありましたが、家族の方の優しさでそれらはすぐになくなりとても楽しい時間となりました。一緒にタコライスを作ったり、トランプをしたり本当の家族のように接して下さいました。特にトランプでは遊びながら沖縄のクイズを一緒に考えたり、雑談をしたりして打ち解け、民泊も忘れられない思い出になりました。

この三日間を通して二つの目標を達成することができました。しかし、戦争の本当の悲惨さを知らない人はたくさんいて、今後一切戦争が起こらないようにするため、今回学んだことをまずは身近な人から伝えていきたいです。そして、その学びを一生の成長につなげていきたいです。

「未知の世界に踏み出す勇気」

南陽市立赤湯中学校 教諭 奥山 優美

顔合わせのときは、まだまだ遠慮がちだった生徒たち。それぞれ力を持っているはずなのにどこか遠慮しているように見えて、「せっかくチャンスをいただいたのにもったいない！」と感じました。しかし、事前研修を重ねるにつれて、「積極的に発言しよう」「もっとこうしたい」「今までの自分を変えたい」という思いが言葉や行動に表れるようになってきました。それを見て、「きっと沖縄でも多くのことを学んで来ることができるだろう」と頼もしく思いました。

四回の研修を終え、ついに降り立った沖縄の地。気温はマイナス、コートや手袋を身につけていた南陽市から、一月でも20℃近くあり、制服のブレザーでさえ脱ぎたくなるような那覇市へ。知識としては知っていたものの、「同じ国なのにここまで違うのか」と、驚きの声が上がりました。

特に印象的だったのは、二日目の轟壕、平和祈念公園・資料館、ひめゆりの塔などの見学です。雨で足元が滑りやすい中、一步一步確かめながら地下へと進んだガマ。ガイドの方から戦時中のお話をお聞きし、全員が一斉にライトを消したときに感じた心細さや恐ろしさ……戦争の残酷さや悲惨さを改めて思い知らされました。そして、資料館に展示されていた写真や証言資料の数々に、衝撃を受けながらも熱心に見入る生徒たちの姿。振り返りの場では、「戦争は人間らしさを奪うものであり、決してしてはならないことだ」という感想が多く聞かれました。その真剣な眼差しから、争いを憎み平和を願う気持ちや、今、私たちが当たり前のように享受している日常のありがたさが一人一人の心に深く刻まれたことを感じました。

初めて見聞きすることばかりで、驚きっぱなしだった三日間。これまで「当たり前」だと思っていたことが覆される経験は、とても貴重だと思います。しかし、このセミナーの『学び』の本質は、「今後、一人一人がどう考え行動していくか？」ということなのではないでしょうか。まずは、学んだことや感じたこと、考えたことを整理すること。それらを自分の言葉に置き換えて、家族や友人などの身近な人たちに伝えること。それを、私たちの命が続く限り行っていくことが、戦争で辛く悲しい思いをされた方々の魂を慰め、世界中に平和の尊さを広げていくことにも繋がるはずです。

生徒の皆さんには、これからも、このセミナーで結ばれた人や土地との繋がりを大事にしながら、未知の世界を知る喜びをたくさん味わってほしいです。自分から、前向きに…殻を破り、変化を怖れずに一步踏み出せば、新たな自分に出会えるはずです。私も、今回縁あって出会った方々から受けた刺激を本校や地域に還元していきたいと思います。今回、このような機会を与えていただいたことに感謝しています。本当にありがとうございました。